

道草だより

兵庫医科大学保健管理センター
職員相談室 2022 2月号

立春も過ぎ、暦の上では春を迎えました。まだ生まれたての春のパワーは弱いですが、これから日増しに強くなって、少しずつ風景も変わっていくことでしょう。そして、3月には三寒四温の日が続く、風の強い日も多いですが、やわらかい日差しを浴びて木の芽がふくらみ、虫たちも活動的になって、春の訪れを感じられることでしょう。花粉症の方にはちょっとつらい季節かもしれませんが、皆さまどうぞご自愛ください。

参考文献:「大切にしたい、にっぽんの暮らし。」さとうひろみ サンクチュアリ出版



夕	そ	・	そ	き	な	あ	た	あ	晴	あ	夕
焼	ん	・	う	っ	に	し	し	し	れ	し	焼
け	な	・	と	と	か	た	か	た	る	た	け
が	ふ	・			を	こ	に	も	に	は	
あ	う	・	思	ち	そ	み	生	わ	ち	か	
っ	に	・	い	が	う	る	き	た	が	な	
た	眺		たい	い	く	か	る	し	い	ら	
	め			あ	あ	な	だ	は	な	ず	工
	ら						ろ		い		藤
	れる						う		な		直
							な		あ		子

「瞬間を味わう」

ゆっくりと夜へ移行する夕暮れの時間。どこか心もとないようなさびしさを感じたことはありませんか。しかし、この詩は、沈む夕陽を見つめながらも、これから迎える「あした」への期待感があります。まだ見ぬ「あした」にこそ、今までに見たこともない「なにか」に出会えるかもしれない、「きっと そうであり／そうに ちがいをなく／そうと 思いたい」というひたむきな思いを感じます。こどものころ、まだ見ぬ明日がどんな日になるのか、わくわくしたことを思い出しました。

大人になった今も、ふと新芽に春の訪れを感じたり、家族や友だちとの会話や仕事の中で、この詩のように心に深くきざみつけられる瞬間を味わうことがあります。日々の何気ない一瞬を、時にはじっくりとところから味わう。この詩は、日常を単調な繰り返しにするかしないか、その分かれ目というものを教えてくれるようです。新型コロナウイルスの感染拡大で落ち着かない日が続いてますが、落ち着いた生活に戻るまで、ストレスを感じるがあっても何気ない一瞬を大切にしながら過ごしていけるといいですね。

引用文献: 日本語を味わう名詩入門18工藤直子 萩原昌好編 あすなろ書房

TEL/FAX: 0798-45-6121 (内線6121) IP (86601)

メールアドレス: shoku-so@hyo-med.ac.jp

相談員 原田 久仁美

